令和７年度

事務事業の点検評価結果報告書

令和８年７月

山県市教育委員会

目　　次

第１章　点検評価結果の概要

１　趣旨説明　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

２　点検評価の実施について　・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

＜ 評価について ＞

３　点検評価結果について

（１）点検評価結果全体の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・　3

（２）分野ごとの点検評価結果　・・・・・・・・・・・・・・・・　4

（３）事業ごとの評価一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

第２章　各事務事業の点検評価シート

教育委員会の活動状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

重点目標１（主要施策　１～　２）　・・・・・・・・・・・・　8

重点目標２（主要施策　３～　４）　・・・・・・・・・・・・　１０

重点目標３（主要施策　５～　６）　・・・・・・・・・・・・　１１

重点目標４（主要施策　７～　９）　・・・・・・・・・・・・　１４

重点目標５（主要施策　１０～１１）　・・・・・・・・・・・　１６

重点目標６（主要施策　１２～１３）　・・・・・・・・・・・　１７

第３章　外部有識者からの意見

外部有識者（意見要約）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

（ 参考資料 ）

・ 山県市教育委員会点検評価実施要綱・・・・・・・・・・・・・　１９

・ 山県市教育委員会点検評価委員会設置要綱・・・・・・・・・・　２１

・ 山県市教育委員会点検評価委員・・・・・・・・・・・・・・・　２３

第１章　点検評価結果の概要

１　趣旨説明

山県市教育委員会では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２６条の規定に基づき、令和７年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告を行うものです。

なお、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に規定されている教育委員会の職務権限は下記のとおりです。

【参考】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)　抜粋」

(教育委員会の職務権限)

第21条　教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

(1)　教育委員会の所管に属する第30条に規定する学校その他の教育機関(以下「学校その他の教育機関」という。)の設置、管理及び廃止に関すること。

(2)　教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産(以下「教育財産」という。)の管理に関すること。

(3)　教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。

(4)　学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。

(5)　教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。

(6)　教科書その他の教材の取扱いに関すること。

(7)　校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。

(8)　校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。

(9)　校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。

(10)　教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。

(11)　学校給食に関すること。

(12)　青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。

(13)　スポーツに関すること。

(14)　文化財の保護に関すること。

(15)　ユネスコ活動に関すること。

(16)　教育に関する法人に関すること。

(17)　教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。

(18)　所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。

（19） 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関すること。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

２ 点検評価の実施について

教育委員会は、「山県市教育委員会点検評価実施要綱」に基づき、令和７年度の教育委員会の事務事業等について、次の内容の点検・評価を実施しました。

（１）教育委員会の活動状況等

教育委員会会議の実施状況、調査活動の実施等について

（２）事務の管理及び執行の状況

「山県市の教育振興基本計画」に示す施策の執行状況及びその成果について

＜評価について＞

上記項目について、次の４区分により、その達成度の評価を行いました。

評　　定	内　　容
Ａ	順調に達成しているもの
Ｂ	おおむね順調に達成しているもの
Ｃ	達成見込みであるが課題があるもの
Ｄ	順調でないもの

なお、地教行法第２６条第２項に規定されている「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」については、「山県市教育委員会点検評価委員会設置要綱」に基づき、評価委員会を設置し、評定結果に対する意見の聴取を行いました。

３　点検評価結果について

（１）点検評価結果全体の概要

◇教育委員会の活動状況

①教育委員会会議の状況　・・・・・・・	順調に達成している　（Ａ）
②調査活動の状況　・・・・・・・・・・	順調に達成している　（Ａ）

◇事務事業の執行状況（全２０項目について評価）

Ａ　順調に達成しているもの	１４／２０項目（７０％）
Ｂ　おおむね順調に達成しているもの	６／２０項目（３０％）
Ｃ　達成見込みであるが課題があるもの	０／２０項目（　０％）
Ｄ　順調でないもの	０／２０項目（　０％）
－　既に達成済のもの	０／２０項目（　０％）

（２）分野ごとの点検評価結果

令和７年度の重点施策別の点検評価結果は、下記のようになりました。

重点目標１　（４項目） 「生き方の軸をもつ」	A	順調に達成しているもの	２　項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	２　項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	０　項目
	D	順調でないもの	０　項目
	―	既に達成済のもの	０　項目
重点目標２　（２項目） 「自分の正解をもつ」	A	順調に達成しているもの	２　項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	０　項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	０　項目
	D	順調でないもの	０　項目
	―	既に達成済のもの	０　項目
重点目標３　（７項目） 「失敗から学ぶ 」	A	順調に達成しているもの	５　項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	２　項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	０　項目
	D	順調でないもの	０　項目
	―	既に達成済のもの	０　項目
重点目標４　（３項目） 「成長の実感をもつ」	A	順調に達成しているもの	３　項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	０　項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	０　項目
	D	順調でないもの	０　項目
	―	既に達成済のもの	０　項目
重点目標５　（２項目） 「夢中になる」	A	順調に達成しているもの	０　項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	２　項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	０　項目
	D	順調でないもの	０　項目
	―	既に達成済のもの	０　項目
重点目標６　（２項目） 「人とつながる」	A	順調に達成しているもの	２　項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	０　項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	０　項目
	D	順調でないもの	０　項目
	―	既に達成済のもの	０　項目

（３）事業ごとの評価一覧表

「山県市教育振興計画」に示された「重点目標」「主要施策」「年度指標」に伴い、令和７年度の「実施事業」の評価を行いました。「実施事業」の評価は、以下のとおりです。

【重点目標１】生き方の軸をもつ	
主要施策１　山県学園構想	**評価**
（1）　「分からない・できない」からの授業改善	A
（2）　合同授業の推進授業	B
（3）　オンライン教材の充実授業	B
主要施策２　スクールワイドＰＢＳ	**評価**
（4）　ポジティブ行動支援の充実授業	A

【重点目標２】自分の正解をもつ	
主要施策３　自己解決能力	**評価**
（5）　自分の正解をもつ学習の充実授業	A
主要施策４　グローバルコミュニケーション	**評価**
（6）　英会話力ＵＰのための開発事業	A

【重点目標３】失敗から学ぶ	
主要施策５　山県実体験学	**評価**
（7）　笑いと表現の学校の開発事業	A
（8）　森と川の学校の充実事業	A
（9）　山と歴史の学校の充実事業	A
(10) 防災と科学の学校の充実事業	A
(11) 仕事と哲学の学校の開発事業	B
(12) キャンプの学校の開発事業	B
主要施策６　アントレ教育	**評価**
(13) 社会課題探究活動の開発事業	A

【重点目標４】成長の実感をもつ	
主要施策７　こどもサポートセンター	**評価**
(14)「わたしの居場所」安心事業	A
主要施策８　こどもみらいデータベース	**評価**
(15) 総合的支援の充実授業	A
主要施策９　ＳＴＡＲアセスメント	**評価**
(16) 社会的スキル支援の充実事業	A

【重点目標５】夢中になる	
主要施策 10　マイエントリー事業	**評価**
(17) 成功者に学ぶ教育の開発事業	B
主要施策 11　アトリエ事業	**評価**
(18) 放課後の教育サービスの開発事業	B

【重点目標６】人とつながる	
主要施策 12　地域クラブ	**評価**
(19) 部活動の地域移行・ＮＰＯへの完全移行の実施事業	A
主要施策 13　未来塾	**評価**
(20) 公営学習塾の充実事業	A

第2章　各事務事業の点検評価シート

様式第１号　　**教育委員会の活動状況　　点検評価シート**　　山県市教育委員会

内容項目	実　　績	成果（○）・課題（●）	評価
教育委員会会議の実施状況	○開催回数 ・令和７年度　７回 ○審議件数 ・令和７年度　議決２５件、承認１８件、報告１件 ○市総合教育会議 ・令和７年度　１回 ○意見交流会 ・令和７年度　実績なし	○総合教育会議を開催し、「テーマ：地域を結び、社会をつくる学び」について、これからの学校は次世代を育成する学びの拠点となることを、市長部局と情報交換ができた。 ○こどもデータ連携実証事業の３年間の成果報告会を開催し、事業内容が良い形で報告ができたと評価され、３年間の事業終了後もその財産である仕組みやシステムは引き継がれることとなった。 ○全小・中学校の放課後に教育サービスを提供する「アフタースクール構想」という新しい教育方針が示された。	A
調査活動の状況等	○視察調査 ＜市内視察＞ ・令和７年度　各小中学校 （山県学園構想オープンスクール 2025） ＜市外視察＞ ・令和７年度　郡上市総合文化センター （岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会参加） ・令和７年度　学校訪問（岐阜市立藍川北学園）	○３年目を迎えた山県学園構想オープンスクールでは、各学校間で行われている合同授業・異学年学習・探究学習について、保護者や地域の方も一緒に参加し、情報共有することができた。 ○義務教育学校（岐阜市立藍川北学園）の現状と課題について情報収集でき、本市の山県方式「小中一貫型」による学校連携の今後の在り方について貴重な視察となった。	A

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標				令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業		事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
生き方の軸をもつ	⑴　山県学園構想	1	「分からない・できない」からの授業改善	一人一人に確かな力を育成するための探究的な授業の在り方を研究し実践する。	□各教科における探求的な学びについて指導の在り方を検討する。	学校教育課	・全小・中学校が、「自由進度学習の導入」「児童生徒の『やってみたい』を基にした授業づくり」「時事問題を題材にした教科の授業づくり」などに取り組んだ。	○「学ぶとはどういうことか」を改めて見つめ直し指導の在り方を改善する機会となった。 ●教科の授業において探究的な学びで問いが連続する構造をつくるために、単元構成の転換に挑戦する。	A
		2	合同授業の推進事業	学校の特色や教科・領域の特性を発揮させる合同授業を実施する。	□学校規模や学校の特色を精査し、有効な合同授業の教科や領域での活動を決め実施する。	学校教育課	・梅原小と大桑小と桜尾小の３、４、６年生（社会・体育・音楽、行事）で実施した。 ・伊自良南小と伊自良北小の３、４、５、６年生（音楽・体育、英語）で実施した。 ・美山小といわ桜小の４、５、６年生（体育・理科・英語）で実施した。 ・高富小と富岡小（体育）、富岡小と桜尾小（理科）、梅原小と大桑小と桜尾小の１年生（生活科）、高富中と美山中（社会）でも実施を試みた。	○複数教員での指導により、きめ細かな指導ができた。 ○多様な意見に触れる機会が増えた。 ○教員の専門性を生かした授業ができた。 ●複数校の時間割調整 ●バスによる移動時間の確保 ●学校独自の活動	B
		3	オンライン教材の充実事業	他校の特徴的な授業をオンラインを通して受講し、自分たちの活動につなげる。	□各学校において特徴となる授業や講演会の生み出し。	学校教育課	・梅原小と大桑小と桜尾小が、オンラインによる合唱のパート練習や発表会を実施した。 ・美山小といわ桜小の３年生（社会）で、調査結果を基に、オンラインで学習問題を作成したり、結果を交流した。 ・大桑小と桜尾小の５年生（社会）で一単元実施した。 ・伊自良中と美山中の２年生が宿泊研修の事前交流を行った。 ・不登校傾向の生徒が、自宅から学校の授業にオンラインで参加した。	○移動せずに多様な学びを行うことができた。 ○教員の専門性を生かすことができた。 ●その場でつまずいた児童生徒に細かな支援がしにくい。 ●各校の学び方に違いがあるため、共有すべきことを確認する必要がある。	B

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標			令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
生き方の軸をもつ	(2) スクールワイドPBS	4 ポジティブ行動支援の充実事業	各学校においてSWPBSの取組を推進し、自他の存在や行為が集団によりよく作用するという自己有用感を高める。	□全中学校が、取組における環境設定・目標共有・価値付けの成果を整理・公表する。	学校教育課	・全小・中学校が、それぞれの実態に合わせてスクールワイドPBSの理念に基づく取組を実施した。 ・活動の成果をまとめ、専門家からの講評を得て、山県市のホームページに掲載した。	○教職員が、自身の指導・援助が児童生徒の望ましい行動を支えるものになっているか、見直す機会となった。 ○他校の取組を共有し、取組の選択肢を増やすことにつながった。	A

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標				令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業		事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
自分の正解をもつ	⑶　自己解決能力	5	自分の正解をもつ学習の充実事業	ダビンチルームやミケランジェロルームを活用し、興味のある事柄等を追究する中で、自分自身の力で問題（課題や疑問など）を解決する力を高める。	□ダビンチルームの活用率 小学校:月12回　　中学校:月6回 □各小中学校の特色を明確にしたミケランジェロルームの開設・試行実施	学校教育課	・ダビンチルームの活用は、小学校 月平均１４回、中学校 月平均１９回	○仲間と交流活動や調査活動、制作活動等を通して、自分で解決しようとすることができた。 ○教科のみならず、児童会や生徒会、総合的な学習の時間、学活等多岐にわたる活動で利用できた。	A

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標				令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業		事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
自分の正解をもつ	⑷　グローバルコミュニケーション	6	英会話力UPのための開発事業	中学校３年生を対象に、外国の方とオンラインで当該国の生活習慣や文化について会話を行うことで、国際理解教育の促進を図るとともに英語表現力の向上を図る。	□3中学校にて実施、内容の精選 □中中英語交流に向けての内容検討(新教科書の内容把握と次年度に向けての見通しをもつ)	学校教育課	・高富中学校、伊自良中学校、美山中学校の３年生を対象に、各学期１回×３回の計３コマを実施した。 ・現地講師1人に対し、４人でのグループレッスンの少人数学習の形態をとった。	○事後アンケートの結果 楽しかったと…７５．６％ またやりたい…７８．６％ 役に立つと感じた…８６．６％ オンライン体験前に感じていた英会話への不安が減少し、英語への興味・関心を高めることができた。 ○オンラインの現地講師が明るく丁寧に対応され、外国の文化や習慣を教室にて肌で感じることができた。	A

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標				令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策		事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
失敗から学ぶ	⑸　山県実体験学	7	笑いと表現の学校の開発事業	笑いを生み出すこと（笑育）を通して、コミュニケーション力、論理的思考、プレゼンテーション力を高める。（対象：小学校）	□拠点校での実施 2小学校が、4年生で実施する。	学校教育課	・高富小と富岡小の４年生を対象に、お笑い芸人を講師とする漫才ワークショップを実施した。	○漫才という舞台装置を用いた発表によって、児童が抱く表現することへの負荷を抑えることができた。 ○他者に対する見方として、日ごろとは異なる面があることに気付くことができた。	A
		8	森と川の学校の充実事業	山県市の森や川に関する体験活動を通して、自分との関わりで郷土の自然のすばらしさについて考え、見識を深める。（対象：小学校）	□小学校5年生対象 パックからモジュールを組み合わせた活動にバージョンアップするための計画立案、実施	学校教育課	・令和６年度までは、すべての学校が同一メニューで、教育センターが主体となっと実施していたが、メニューの半分は各学校の独自活動として行った。 ・実施後、学校独自活動交流会を行い、次年度の計画立案に生かせるようにした。 ・初めての試みであったため、学校担当者と教育センター担当者で何度も相談、調整をして進めていった。	○活動の半分が学校独自活動となったことで、学校が主体的に計画立案、実施することができた。	A
		9	山と歴史の学校の充実事業	大桑城跡の調査成果等をもとに、市内小学校児童を対象にした講話を行う。 ・山県市に残る歴史遺産に触れる活動を通して、自分から課題をもって見聞きする調査活動のよさを体感し、学びを深める。（対象・小学校） ・大桑城跡の調査成果等をもとにした講話で学びを深める。（対象：小学校）	・市内小学校高学年児童を対象に講話を実施（全小学校児童宛て実施） □小学校6年生対象 パックからモジュールを組み合わせた活動にバージョンアップするための計画立案、実施	学校教育課・生涯学習課	・令和６年度までは、すべての学校が同一メニューで、教育センターが主体となっと実施していたが、メニューの半分は各学校の独自活動として行った。 ・初めての試みであったため、学校担当者と教育センター担当者で何度も相談、調整をして進めていった。 ・「山と歴史の学校」の一環で、小学校６年生を対象に担当学芸員が大桑城跡に関する講話を行った。	○活動の半分が学校独自活動となったことで、学校が主体的に計画立案、実施することができた。 ○大桑城跡の活用に資する基礎情報について小学生が相互に学び合う企画を創出できた。	A

様式第２号　　事務事業の執行状況　点検評価シート　　山県市教育委員会

重点施策	重点目標			令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
失敗から学ぶ	⑸　山県実体験学	10　防災と科学の学校の充実事業	濃尾地震に関する調査活動を通して、災害を科学的に分析し、防災に対する意識を深め、自ら発信する力を伸ばす。（対象：中学校）	□中学校1年生対象パックからモジュールを組み合わせた活動にバージョンアップするための計画立案、実施	学校教育課	・令和６年度までは、すべての学校が同一メニューで、教育センターが主体となって実施していたが、メニューの半分は各学校が計画・立案し独自活動として行った。 ・初めての試みであったため、学校担当者と教育センター担当者で何度も相談、調整をして進めていった。	○地域に濃尾地震の痕跡がみられる学校は、根尾での学習後、地域の痕跡を見学し、地震を自分事としてとらえることができた。根尾での学習を理科の学習のカリキュラムに加えている学校もあり、教科で学んだことが身の回りのこととして広がりを見せている。	A
		11　仕事と哲学の学校の開発事業	成功の裏にはその数倍の失敗があることを企業の中から学ぶことで、失敗を恐れず何事にも前向きに取り組もうとする意欲を育てる。	□年間を見通した指導計画の作成及び、講師の選定とリストの作成（対象中学校2年）	学校教育課	・全中学校において、指導計画に基づいた職業講話や職業体験を実施した。	○体験を通して「働く」ことの意義を考える機会となった。 ●講師や体験受入企業をより拡充する。	B
		12　キャンプの学校の開発事業	協働学習・協働生活を通して、個々の資質・能力を活用・発揮しながら互いによりよい生活を築いていく。（対象：小中学校）	□試行のためのモデルプランの作成と実施のための計画立案	学校教育課	・試行のためのモデルプランを作成し、実施のための計画を立案した。 ・プランを実行するための用具をそろえつつある。	○試行のための準備は整った。 ●各学校にどう展開していくのか、校長会と協議する必要がある。	B

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標			令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
失敗から学ぶ	(6)　アントレ教育	13　社会課題探究活動の開発事業	生徒自らが探究課題を掲げ、現場に赴き調査や実践活動を行いながら、社会課題を解決するための思考力と実行力を身に付ける。（探究課題別異学年学習）	□全小中学校が、探究課題別異学年学習の可能な単元や学年を選定する。小中モデル校を選定する。	学校教育課	・地域活性化企業人の協力のもと、伊自良南小学校の総合的な学習の時間において、アントレプレナーシップ教育を実施した。６年生の児童を中心に、子どもたち自身が会社経営を模した実践的な学びに取り組んできた。具体的には、自ら植えた米、SDGs学習の一環として地元繊維業者から提供を受けた布の端材を活用した物品、さらに学校敷地内で採れた薪を「てんこもり農産物直売所」で販売した。	○伊自良南小学校をモデル校としアントレプレナーシップ教育を推進することで、子どもたちは実社会の中で試行錯誤を重ね課題解決に取り組む思考力・実行力や、自ら主体的に行動する自主性を身に付けることができた。 ○教員にとって子どもたちに活動を委ねることの意義や効果を実感する機会となった。	A

重点施策	重点目標			令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
成長の実感をもつ	(7) こどもサポートセンター	14 「わたしの居場所」安心事業	誰しもが「心」と「学び」の補償がなされるように設備や人的配置を整え、たくましく生き抜く子供の成長を援助する。	□備品や場所の環境整備に向けた準備	学校教育課	・居場所「ここぷれ」の環境や備品の整備を進めた。 ・通所登録児童生徒１６名。（１６名中３名は、R７年度末に通信制高校に進学。また６名はR８年度より学校に通学）	○環境整備、備品整備が進み、適応支援，学習支援を進める環境ががそれぞれ整ってきた。 ○個に応じた支援の継続により、学校に行きづらかった児童生徒が進学したり、学校に再登校を始めたり、あるいはここぷれへの継続通所を選択したりなど、自立に向けた力をつけてきた。	A

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標			令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
成長の実感をもつ	(8) こどもみらいデータベース	15 総合的支援の充実事業	いじめや不登校など子どもが抱える困難を事前に予測・把握するため、市や教委、学校が保有するデータをDBにまとめ、ＡＩ予測支援システムで支援対象者を抽出し、支援につなげる。	□支援対象者を各学校6人程度	学校教育課	・対象児童生徒数１，５９５名、うち支援対象者３９名、支援後は７９．５％が大いに改善、または改善と変容することができた。 ・事業に対する不同意書は昨年度の５０名から３０名に減少、支援対象者を「気になるが支援はまだ」が過半数以上 ・AIが判定した児童生徒の困難類型の情報を学校に提供し、事業の活性化を図った。	○保護者、学校ともに本事業の趣旨が浸透してきた。 ○校内設置委員会での支援対象者の絞り込みや支援内容及び方法についての検討が積極的に行われた。 ○学校生活の中での支援がよりきめ細かになされた。とくに本人との対話が重視され，担任だけでなく全校職員で関わる体制が整ってきた。	A

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標			令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
成長の実感をもつ	(9) ＳＴＡＲアセスメント	16 社会的スキル支援の充実事業	生徒指導上の問題を未然に防ぎ、快適な学習環境の確保につなぐ手立てや支援の方法を見出し、児童生徒支援につなげる。	□STAR事業の実施 □より簡易的なアンケートの開発 □変容分析の観点を選定する。	学校教育課	・全学校の小4～中3を対象に、年間2回のアセスメントを実施した。 ・実施後に、専門家から各学校へのフィードバックの機会を設けた。 ・よりよいアセスメントの開発に向けて、開発者と協議した。	○アセスメントの結果を基にして、支援の必要な児童生徒への手立てを教職員で共有し、問題行動の未然防止のためのガイダンスをしたり、声がけの言葉を工夫したりすることができた。	A

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標			令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
夢中になる	⑽　マイエントリー事業	17　成功者に学ぶ教育の開発事業	専門的な分野に長けた方が、どの様に物事を捉えているのか、成功者の取組方や物の見方、考え方を学ぶ。	□4年間を見通した講師の選定と1年目の実施	学校教育課	・今年度は、４年間を見通した講師選定と、１年目の実施計画の策定を行った。実践には至らなかったものの、講師の選定や来年度以降の具体的な計画を進めることができた。来年度以降は、放課後の時間を活用し、中学生を対象とした地域課題解決型探究学習を実施する中で、地域講師として地元の専門的分野で活躍する方々を招き、その取組姿勢や物事の見方・考え方から学ぶ機会を創出する予定である。	○山県市出身で起業している方を講師として選定することができた。 ○来年度以降を見据えた具体的な実施計画を立てることができた。 ●今年度は実践実施までには至らなかった。	B

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標			令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
夢中になる	⑾　アトリエ事業	18　放課後の教育サービスの開発事業	学校の余裕教室を活用した、地域住民との交流可能な１５時３０分以降（放課後）の子どもたちの居場所の提供。	小学校3校において開催	生涯学習課	・伊自良南小学校、伊自良中学校において、参加希望者の集まった、伊自良南小学校において「ハンドストラップづくり」を４回実施した。 （参加者８名）	○地域住民の参加が得られ、こどもたちとの交流の場につながった。 ●学校、学びサポーター、地域住民のそれぞれと連携がとれるコーディネート役の人材確保。	B

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標			令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
人とつながる	⑿ 地域クラブ	19 部活動の地域移行・NPOへの完全移行の実施事業	休日の部活動を地域移行しつつ、平日の部活動においても段階的に地域へ移行できる仕組みを構築する。（５年計画）	（継続実施） 部活動地域移行事業のTSCへの業務委託	生涯学習課	・部活動地域展開(移行)事業管理運営等業務をＴＳＣへ委託し、運動系１１種目・１３クラブが休日の地域クラブ活動として実施することができた。また、ＴＳＣは各クラブ活動の計画や指導報告、参加者への連絡など、適切に業務を実践することができた。さらに、３クラブがＴＳＣチームとして大会に出場することができた。 ・文化系については、外部講師を派遣し、生徒への指導を実施することができた。	○中学校長会、ＴＳＣ、教育委員会の三者会議を年４回開催し取組の方針や実施計画、諸課題について協議を深めることができた。 ○近隣の高校と連携した交流を深め、生徒にとって充実した機会となった。 ●休日活動の移動支援バスの運行支援 ●平日も休日も一体的な活動の実践 ●指導者の資質向上を図る研修会の開催 ●平日の常勤コーチの不足	A

様式第２号

事務事業の執行状況　点検評価シート

山県市教育委員会

重点施策	重点目標			令和７年度の目標	担当課	令和７年度の実績・成果と課題		評価
	主要施策	事業	事業内容			実績	成果（○）・課題（●）	
人とつながる	⒀ 未来塾	20 公営学習塾の充実事業	家庭での学習が困難であったり、学習が遅れがちの市内在住・在学の中学生及び高校生を対象に、自主的な学習習慣と基礎的な学力の定着を目指し支援する。	（継続実施） ニーズを把握しながら実質について検討して行きます。	生涯学習課	・高富、伊自良、美山の各コミュニティセンターにおいて４６回ずつ開催しました。（申込み者数：９７名 参加者８９名） ・昨年度のアンケートにおいて要望のあった読書感想文講座を８月に市立図書館で開催 （参加者枠５名に対し申込み者数：８名）	○令和６年度のアンケート結果を元に支援内容の拡充（読書感想文講座の開催） ○自主学習を主体とし、個々に合わせた学習支援を行うことで、生徒たちの基礎学力の向上、学習習慣の定着に寄与している。また、基礎学力が向上したことで、民間塾へ通い始める生徒も増えてきている。 ●申込み者数に対してスタッフが不足しているため、人材・人員確保が課題	A

第３章　点検評価委員会の意見（令和７年度の評価）

（1）点検評価委員からの意見（要約）

全体	
・先生方の学校間人事異動も功を奏し、「山県学園構想」の仕組みを理解し、統合を選択しなかったことに付加価値をつけ、地域の教育力を立ち上げ行っていく仕組みが更に拡充され、素晴らしいと思う。 ・山県教育のビジョンを可視化していく取り組みと、子ども目線の施策を目標にして語れることが大切である。 ・山県市が今取り組んでいることは、新しい学習指導要領の先駆けになると思う。	

No　１５	総合的支援の充実事業
・データ連携の継続により、経験だけではなく、見えないところが数値化されることから現在地がわかる。勿論、子どもを見る、人の目が大事である。	

No　１９	部活動の地域移行・NPO への完全移行の実施事業
・レベルの差別化は難しいが、個にあったトレーニングを求める。 ・今後アスリートコースを作るには、指導者の確保や資金の面で困難な状況にあることから、持続可能な体制構築が課題である。	

その他	
・国史跡指定「大桑城跡」を点検評価に加えるといい。 内容的に誇るべきものであることから、教育委員会が所管する意味について、きちんと位置付けが必要である。 ・いろいろな学校の取り組みの中に公民館と連携した活動が入り込んでいることから、全体の機構評価をするには、公民館活動も加える必要がある。	

○山県市教育委員会点検評価実施要綱

平成２１年２月２７日
教育委員会告示第７号
改正　令和３年３月２６日教委告示第４号

（目的）

第１条　この要綱は、山県市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことで、山県市教育行政の推進体制を一層充実させ、教育水準の向上を図り、もって市民の期待に応えるために必要な事項を定めることを目的とする。

（点検評価の実施及び体制）

第２条　教育委員会は、前年度の教育委員会の取組みについて、点検評価を行う。

２　教育委員会は、前項の点検評価を適正なものとするため、外部の学識経験者によって構成する山県市教育委員会評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見を聴かなければならない。

（評価事項）

第３条　教育委員会は、前年度の取組みについて、次の各号に掲げる内容の点検評価を実施する。

（１）　教育委員会の活動状況　教育委員会会議の実施状況　調査活動の状況等

（２）　事務事業の執行状況　山県市教育振興基本計画に掲げる主要施策の施行状況及びその成果

（３）　前年度の点検評価結果への対応状況　前年度の点検評価結果において次項による達成度の評価がＣ又はＤとされた事務事業に対する対応の状況

２　前項の点検評価においては、次の４区分により達成度の評価を行う。

Ａ　順調に達成しているもの

Ｂ　おおむね順調に達成しているもの

C　達成見込みであるが課題があるもの

D　順調でないもの

３　第１項各号に定める点検評価は、それぞれ様式第１号から様式第３号により行う。

（点検評価の手順）

第４条　点検評価を実施するに当たっては、事務局各課がその所管する事務事業等について第一次評価を行う。

２　教育委員会は、第一次評価の結果を基に、第２条第２項に規定する評価委員会の意見を聴いたうえで、教育委員会会議において最終評価を行う。

３　教育委員会は、前項の評価結果を報告書にまとめ、議会に提出する。

４　教育委員会は、前項の報告書を教育委員会のホームページに掲載するほか、広報等を利用し市民に公表する。

（庶務）

第５条　点検評価の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（補則）

第６条　この要綱に定めるもののほか、この要綱を実施するために必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

この要綱は、平成２１年４月１日から施行する。

附　則（令和３年３月２６日教委告示第４号）

この告示は、令和３年４月１日から施行する。

○山県市教育委員会点検評価委員会設置要綱

平成２１年２月２７日
教育委員会告示第８号
改正　平成２８年６月２８日教委告示第７号
令和３年３月２６日教委告示第３号

（設置）

第１条　山県市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うに当たり、透明性及び客観性を確保するため、山県市教育委員会点検評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　評価委員会は、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、外部の視点から評価を行い、教育委員会に評価結果を報告する。

（組織）

第３条　評価委員会は、委員１０人以内をもって組織する。

２　委員は、次に掲げるもののうちから教育委員会が委嘱する。

（１）　教育学その他教育行政に関する専門知識を有する者

（２）　学校関係者

（３）　保護者

（４）　民間における企業体、団体等の関係者

（５）　その他教育長が適当と認める者

（任期）

第４条　委員の任期は２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることができる。

（委員長）

第５条　評価委員会に委員長を置く。

２　委員長は、委員の互選により定める。

３　委員長は、会務を総理し、評価委員会を代表する。

４　委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指定した委員がその職務を代理する。

（会議）

第６条　評価委員会は、委員長が招集し、その会議の議長を務める。

２　評価委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

３　委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて、意見を聴取し、又は必要な資料等の提出を求めることができる。

（庶務）

第７条　評価委員会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（補則）

第８条　この要綱に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が評価委員会に諮って定める。

附　則

この要綱は、平成２１年４月１日から施行する。

附　則（平成２８年６月２８日教委告示第７号）

この要綱は、公布の日から施行する。

附　則（令和３年３月２６日教委告示第３号）

この告示は、令和３年４月１日から施行する。

山県市教育委員会点検評価委員

（敬称略）

委員長	平 澤　紀 子	岐阜大学大学院教育学研究科教授
副委員長	早 川　三根夫	岐阜大学客員教授
委 員	民 谷　千壽子	NPO 法人 Team-yamagata Sports Club 理事長
委 員	木 村　麻 理	地域づくり NPO 山県楽しいプロジェクト 事務局長 理事
委 員	早 川　秀 樹	小中学校長会会長（美山小学校）
委 員	鷲見日菜子	市PTA連合会代表 （伊自良南小学校）